



平成30年9月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月13日

上場会社名 株式会社イグニス
コード番号 3689 URL <http://1923.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 錢 鋸
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 山本 彰彦

TEL 03-6408-6820

四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第1四半期の連結業績(平成29年10月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第1四半期	1,289	9.0	247		250		233	
29年9月期第1四半期	1,416	7.2	148	63.7	136	66.5	67	70.7

(注) 包括利益 30年9月期第1四半期 241百万円 (%) 29年9月期第1四半期 59百万円 (74.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第1四半期	17.45	
29年9月期第1四半期	5.32	5.03

(注) 1. 当社は、平成29年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

2. 平成30年9月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第1四半期	5,998		3,896			63.5
29年9月期	6,291		4,135			64.3

(参考) 自己資本 30年9月期第1四半期 3,810百万円 29年9月期 4,046百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期		0.00		0.00	
30年9月期					
30年9月期(予想)		0.00		0.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の連結業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	
	百万円	%
通期	7,000	25.5

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年9月期1Q	13,415,200 株	29年9月期	13,412,200 株
期末自己株式数	30年9月期1Q	43,234 株	29年9月期	43,128 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年9月期1Q	13,370,075 株	29年9月期1Q	12,672,724 株

(注)当社は、平成29年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式(普通株式)を算定しております。

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3、「当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで平成30年2月14日に開示予定となります。また、音声による補足説明についても速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)は「世界にインパクトを与えなければ、気がすまない」という経営理念及び「次のあたりまえを創る。何度でも」というミッションのもと、インターネット、スマートフォン等を通じたさまざまなビジネス領域において、多くのユーザーに支持されるサービスの企画・制作・運営を行っております。

当社グループが展開するビジネスとして、「運命より、確実。」をキャッチコピーとしたオンライン恋愛・婚活サービス『with』等のコミュニティ、1日3回のド迫力リアルタイム協力バトルが楽しめるスマホRPG『ぼくとドラゴン』等のネイティブゲーム、ビジネスパーソン向けメディア『U-NOTE』等のメディアという3ジャンルを既存事業と位置付けて展開しております。さらに、新規ジャンルへのチャレンジとして、VR(Virtual Reality:仮想現実)やAI(Artificial Intelligence:人工知能)、IoT(Internet of Things:モノのインターネット)等の最先端技術に着目し、前連結会計年度より積極的に経営資源を投入してまいりました。VR分野では、平成29年11月にVRタレントのマネジメントを専門とする株式会社岩本町芸能社との業務提携契約を締結しVRアイドル市場へ本格参入しました。また、同分野においては、認知症予防・進行遅延効果及び痛み軽減効果へのVR技術応用に関する順天堂大学との共同研究など複数のプロジェクトを推進しております。AI・IoTを活用した新規分野では機械学習を用いた自動外観検査装置等の開発・検証について愛知県豊田市内の自動車部品メーカーと提携し推進しております。また「ライフハック」という分野としては、空地の有効活用、街の賑わい創出を目指したビジネスとして、“空地(土地オーナー)”と“フードトラック事業者”をマッチングさせるフードトラック・プラットフォーム『TLUNCH』も展開しております。このように当社グループは多くの事業を展開しており、そのため当第1四半期連結累計期間では、前連結会計年度に引き続き事業強化・新規事業の収益化に向け、先行投資を行ってまいりました。新たな事業基盤構築を図りつつ更なる成長を目指してまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,289,705千円(前年同四半期比9.0%減)、営業損失は247,550千円(前年同四半期は営業利益148,620千円)、経常損失は250,457千円(前年同四半期は経常利益136,118千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は233,295千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益67,397千円)となりました。

なお、当社グループはセグメント情報を記載していないため、セグメントごとの業績は省略しております。

各ジャンルの取り組みと業績は以下のとおりであります

(コミュニティ)

当第1四半期連結累計期間はオンライン恋愛・婚活サービス『with』を中心として、ユーザー同士によるコミュニティ形成にフォーカスした運用型サービスに注力いたしました。『with』については、先行投資として積極的なプロモーションを展開してきたこともあり、国内ソーシャルネットワークのカテゴリにおいて売上ランキングは上位収斂し、ユーザー数の増加も継続しております。このような中、他社類似サービスとの差別化を図るべく、心理学を活用して最適な男女のマッチングを目指し、「自己紹介文の自動生成機能」や「クリスマス相性診断イベント」等の機能追加やイベントを実施してまいりました。当該サービスについては、引き続きユーザービリティの向上及び積極的なプロモーションを展開することでユーザー数の増加を図ってまいります。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は335,672千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は135,935千円であったことから、前年同四半期比146.9%増となっております。

(ネイティブゲーム)

当第1四半期連結累計期間は『ぼくとドラゴン』が引き続き安定的に推移いたしました。具体的な取り組みとして「まおう様ラッキーボックス」等の機能追加や「350万ダウンロードキャンペーン」、「THE KING OF FIGHTERS '98 コラボキャンペーン」といった、各種キャンペーンを実施いたしました。今後も機能追加・改善・キャンペーンを実施し、ユーザー満足度の向上と業績の安定化に努めてまいります。また、新規プロダクトとして、『メガスマッシュ(コードネームGK)』の開発にも取り組み、平成29年12月に事前登録を開始しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は799,752千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は1,168,492千円であったことから、前年同四半期比31.6%減となっております。

（メディア（その他））

メディア（その他）はビジネスパーソン向けメディア『U-NOTE』やフードトラック・プラットフォーム『TLUNCH』並びにどのジャンルにも属さないプロダクトにより構成されております。

当第1四半期連結累計期間は、主にメディアにおいて、収益拡大・安定化に向けて転職メディア『U-NOTE CAREER』と『U-NOTE』ユーザーとの相互送客を図ってまいりました。また、『TLUNCH』は首都圏を中心に運営スペースと登録フードトラック事業者数を拡大させており、日本最大級の規模に成長しております。その他、中長期的な成長を見越し、新規分野としてVRやAI・IoTといった最先端技術に着目したビジネスにも投資を積極的に行っております。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は154,280千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は112,287千円であったことから、前年同四半期比37.4%増となっております。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末の総資産は5,998,544千円となり、前連結会計年度末に比べ293,027千円減少いたしました。流動資産は4,452,617千円（前連結会計年度末比284,254千円減）となりました。主な減少要因は、既存事業強化や新規事業への投資として現金及び預金が667,955千円減少したこと、主な増加要因は、その他に含まれる立替金が269,121千円、営業貸付金が136,808千円増加したことによるものであります。また、固定資産は1,545,927千円（前連結会計年度末比8,773千円減）となりました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末の負債は2,102,026千円となり、前連結会計年度末に比べ54,161千円減少いたしました。流動負債は1,370,196千円（前連結会計年度末比25,621千円減）となりました。主な減少要因は、消費税等の支払いによりその他に含まれる未払消費税等が109,261千円減少したこと、主な増加要因は、未払金が61,063千円、運転資金の借入により一年内返済予定の長期借入金が33,336千円増加したことによるものであります。また、固定負債は731,830千円（前連結会計年度末比28,540千円減）となりました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末の純資産は3,896,517千円となり、前連結会計年度末に比べ238,865千円減少いたしました。主な減少要因は、利益剰余金が233,295千円減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年9月期の連結業績予想につきましては、平成29年11月13日に公表いたしました「平成29年9月期 決算短信」の内容に変更はございません。なお、業績予想は、同資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,172,913	1,504,958
売掛金	614,062	591,804
営業貸付金	1,286,082	1,422,891
貯蔵品	5,194	5,194
未収還付法人税等	363,715	364,225
その他	294,902	563,543
流動資産合計	4,736,871	4,452,617
固定資産		
有形固定資産	187,586	200,501
無形固定資産		
のれん	80,373	73,738
ソフトウェア	395,322	383,245
無形固定資産合計	475,696	456,984
投資その他の資産	891,417	888,441
固定資産合計	1,554,700	1,545,927
資産合計	6,291,571	5,998,544
負債の部		
流動負債		
買掛金	79,155	56,767
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	380,816	414,152
未払金	235,220	296,283
未払法人税等	22,296	15,845
その他	278,328	187,146
流動負債合計	1,395,817	1,370,196
固定負債		
長期借入金	616,574	588,034
資産除去債務	143,796	143,796
固定負債合計	760,370	731,830
負債合計	2,156,188	2,102,026
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,505,334	1,506,973
資本剰余金	1,390,186	1,388,363
利益剰余金	1,198,290	964,995
自己株式	△51,933	△52,164
株主資本合計	4,041,878	3,808,167
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	4,152	1,979
その他の包括利益累計額合計	4,152	1,979
新株予約権	5,262	5,257
非支配株主持分	84,090	81,112
純資産合計	4,135,383	3,896,517
負債純資産合計	6,291,571	5,998,544

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成28年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成29年12月31日)
売上高	1,416,715	1,289,705
売上原価	244,768	278,345
売上総利益	1,171,947	1,011,359
販売費及び一般管理費	1,023,327	1,258,909
営業利益又は営業損失(△)	148,620	△247,550
営業外収益		
受取利息	836	385
為替差益	1,098	3,638
雑収入	36	789
営業外収益合計	1,971	4,814
営業外費用		
支払利息	930	1,741
貸倒引当金繰入額	3,999	—
持分法による投資損失	3,391	5,857
株式交付費	6,070	35
雑損失	80	86
営業外費用合計	14,473	7,721
経常利益又は経常損失(△)	136,118	△250,457
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	136,118	△250,457
法人税、住民税及び事業税	27,746	10,455
法人税等調整額	57,723	△21,178
法人税等合計	85,470	△10,722
四半期純利益又は四半期純損失(△)	50,647	△239,734
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△16,749	△6,439
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	67,397	△233,295

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成28年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	50,647	△239,734
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	8,590	△2,172
その他の包括利益合計	8,590	△2,172
四半期包括利益	59,238	△241,907
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	75,988	△235,467
非支配株主に係る四半期包括利益	△16,749	△6,439

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

開示情報としての重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。